【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成23年4月28日(2011.4.28)

【公表番号】特表2009-528853(P2009-528853A)
【公表日】平成21年8月13日(2009.8.13)
【年通号数】公開・登録公報2009-032
【出願番号】特願2008-557382(P2008-557382)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｎ　5/06　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｎ　5/06　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成23年2月24日(2011.2.24)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
座瘡細菌を含む組織を、約300nm～約1400nmの波長で発光する少なくとも1つの光源に曝露する工程、
約20mWまたはそれ未満の電力出力で少なくとも1つの光源を動作させる工程、および
組織上または組織中に存在する座瘡細菌の減少を観察する工程
を含む方法における、前記少なくとも1つの光源の使用。
【請求項２】
座瘡細菌が、皮脂腺性の油腺、皮脂管、セボサイト（sebocyte）、それらの支持組織、およびそれらの組み合わせからなる群より選択される組織中または組織上に存在する、請求項1記載の使用。
【請求項３】
光源が狭帯域の多色電磁放射線である、請求項1記載の使用。
【請求項４】
狭帯域の多色電磁放射線が約390nm～約1400nmの主放射波長を有する、請求項3記載の使用。
【請求項５】
主放射波長が、400nm、420nm、430nm、445nm、475nm、590nm、635nm、655nm、660nm、670nm、780nm、785nm、810nm、830nm、840nm、860nm、904nm、915nm、980nm、1015nm、1060nm、1260nm、および1400nmからなる群より選択される、請求項4記載の使用。
【請求項６】
座瘡細菌を含むかまたは取り囲む組織に光調節促進剤を適用する工程を含む、請求項1記載の使用。
【請求項７】
光調節促進剤が、ビタミンC、ビタミンE、ビタミンA、ビタミンK、ビタミンF、レチンA（トレチノイン）、アダパレン、レチノール、ヒドロキノン、コウジ酸、成長因子、エキネシア、抗生物質、抗真菌剤、抗ウイルス薬、漂白剤、αヒドロキシ酸、βヒドロキシ酸、サリチル酸、抗酸化物トライアド化合物、海草派生物、海水派生物、酸化防止剤、フィトアントシアニン、エピガロカテキン-3-ガナート、植物栄養素、植物生成物、草本生成物、ホルモン、酵素、鉱物、遺伝子組換え物質、補因子、触媒、老化防止物質、インスリ

ン、微量元素（カルシウムイオン、マグネシウムなどを含む）、鉱物、ロゲイン、育毛刺激物質、育毛抑制物質、色素、天然または合成メラニン、金属プロテアーゼ阻害剤、プロリン、ヒドロキシプロリン、麻酔物質、クロロフィル、銅クロロフィリン、葉緑体、カロチノイド、バクテリオクロロフィル、フィコビリン、カロチン、キサントフィル、アントシアニン、ならびに上記の誘導体、小成分、および類似物、天然物質および合成物質の両方、ならびにそれらの混合物の少なくとも1つからなる群より選択される活性物質を有する組成物を含む、請求項6記載の使用。

【請求項８】

光調節促進剤を電磁放射線源に曝露する前に、光調節促進剤を浸透促進処置に供する工程をさらに含む、請求項1記載の使用。

【請求項９】

浸透促進処置が、酵素剥離、マイクロダームアブレーション、溶剤ストリッピング、テープストリッピング、スクラブ洗浄（scrubbing）、レーザー焼灼、レーザー蒸発、化学薬品剥離、電気刺激、高いピーク電力および短いパルス幅を使用するレーザー療法、超音波、またはそれらの組み合わせからなる群より選択される処置を含む、請求項8記載の使用。

【請求項１０】

狭帯域の多色電磁放射線源が発光ダイオードである、請求項3記載の使用。

【請求項１１】

発光ダイオードのエネルギー出力が約0.5mW～約20mWである、請求項10記載の使用。

【請求項１２】

発光ダイオードのエネルギー出力が約4mWである、請求項11記載の使用。